

衰退する地域商店街の
社会的必要性と持続性
～箱崎の中小商店の
後継者問題の側面から～

【要約】

第1章では、問題の所在と研究の目的を示した上で、本論で商店街の後継者問題をどのように研究するか手法を説明する。全国の商店街では商店街のシャッター街化が問題となっている。それは郊外大規模店の影響、モータリゼーション（車社会化）への不適合、本論では、地域商店街の後継者問題を取り上げる。ここでは、九州大学が位置する福岡県福岡市東区の箱崎にある商店街を取り上げ、調査を行っている。

第2章では、商店街とはどのようなものかという行政的定義からはじめに見てみる。それから全国と福岡市の商店街の比較を通して商店街の現状を総覧する。その上で今回調査する商店街の後継者問題がどのような位置にあるかを確認し、商店街でどのような研究がされてきたかを見ていく。商店街研究では、モータリゼーションに始まる大規模店の問題から、新たな取り組みをして注目される商店街と、様々な方面から見てみる。そして、これからの商店街が求められる機能を提示し、社会的な定義づけをおこなう。

第3章では、今回調査を行った箱崎の商店街について紹介する。そこでは箱崎を取り巻く現状、箱崎商店街に関連する組織として箱崎商店連合会、箱崎シール会を紹介し、箱商連が抱える問題を見てみる。箱崎をいっても、1丁目から6丁目までであるため、ここでは本論で扱う箱崎商店街の区域を設定している。そして、箱崎商店街において検証する家業の継承意識についての仮説を4つ提示する。

第4章では、その仮説をもとに家業の継承意識を従属変数として、4つの独立変数がどのような影響をもつかを見てみる。その中でわかってきたことは家業に対して、肯定的な意識をもつものは「好きで」継いだという共通点を持ち、次代への積極的な家業継承意識をもつ。また、商店街が特徴としてもつ職住一致が、職住分離している商店と比較した結果、どのように家業継承意識にどのような影響をもつかを見てみた。そこでは、商業面だけではなく、生活面からの影響も大きく、商売を行うということが生活の一部と化し、買い物客との日常的交流がどの店舗でもあることが確認された。最後に商店街活動に商店は期待しているかを見てみた。そこでは、ほぼすべての商店が商店街活動について消極的で、それが商店街活動の低迷へとつながっていることがわかった。そこには家業継承意識への影響は見られなかったが、これからの箱崎の商店街活動の課題となるところである。箱崎の商店街は瓦解し、組織としての取り組みに魅力を感じない未加盟店が数多く存在する。これらの商店を巻き込むような街区一体となった取り組みが箱崎商店街には必要であろう。商店街の存続は、商店街だけの問題ではなく、箱崎の住民全体の地域自治問題である。その視点を用いて箱崎のこれからの姿について次章も参考にまとめる。

第5章では、これからの箱崎での取り組みについて現箱崎商店連合会会長のF-1会長と、ハコイチ（箱崎手作り市の略称）の創始者になぜそのようなことを始めたのかについて聞き取りを行った。彼らの見る箱崎はどのような場所なのか、これからどのようなことをしようと思っているのか、箱崎の今後の目標を設定するにあたり、必要だと考えるためである。そして、その上でこれからの商店街の可能性について考察する。

【目次】

1	問題の所在と研究の目的	1
1.1	研究の背景	1
1.2	研究の目的	2
1.3	研究手法	2
2	商店街の現状	3
2.1	商店街とは何か	3
2.2	商店街の現状 - 全国と福岡市の比較をもとに -	4
2.3	従来の商店街研究から近年の商店街研究の拡大	13
2.4	商店街の必要性	17
2.5	商店街の社会的定義	20
3	箱崎商店連合会の現状	22
3.1	箱崎の現状	22
3.2	箱崎商店連合会の結成から現状に至る経緯	28
3.3	箱崎を対象とする理由	37
3.4	箱崎商店連合会の商店と継承性	38
4	商店の継承要因の検証と考察	39
4.1	事業継承意識の分類	47
4.2	家業意識と商店の継承性	51
4.3	職住一致と商店の継承性	57
4.4	顔なじみ客と商店の継承性	63
4.5	商店街活動への期待と商店の継承性	67
4.6	小括	72
4.7	今後の課題	73
5	これからの商店街	75
5.1	箱崎商店連合会会長 F-1 さんの話	75
5.2	箱崎への新しい風 - ハコイチの取り組み -	75
5.3	九州大学の移転	77
5.4	商店街の可能性	79